

## 生命保険9：妻の保障が必要な理由

### ●こんな人には妻の保障が必要

#### ①子供が小さく、夫婦とも親元を離れて暮らしている

子供がまだ小さいうちは、誰かが面倒を見なければならぬことが多いでしょう。妻がその役目を担っている場合、妻が亡くなるとその代わりにベビーシッターや保育所などの有料サービスを利用する可能性があります。特に親元から離れて暮らしている場合は、両親に子供を預けることもできないのでその必要性は高まるでしょう。妻が入院した場合も同様に考えることができます。

#### ②夫婦共稼ぎで二人の収入が家計を支えている

夫婦二人で家計を支えている場合、妻が亡くなることにより家計に影響がでます。妻が亡くなった場合の公的な保障は手薄なため、人によっては夫の保障よりも手厚くする必要があります。入院した場合も同様で、健康保険で賄えない分は医療保険などでカバーする必要があります。

### ●参考：ベビーシッター・家政婦にかかる費用

#### ベビーシッター

入会金	数千円～20,000円程度
年会費	数千円～10,000円程度
時間単価	1,500円～3,000円程度
その他	交通費、家事や看病、入浴などのオプション料金あり

#### 家政婦

家事代行	1,000円～1,500円/h 程度 別途交通費、紹介料など
------	--------------------------------

### ●妻にはこんな保障の準備を

例) 専業主婦、子供が乳幼児、小学校に上がるまでにまだ5年ある

**死亡保障**：小学校の高学年になるまでの間、妻にも死亡保障を準備。ベビーシッターにかかる費用を中心に

★満期まで10年間の定期保険で死亡保障を準備



**医療保障**：健康保険でカバーできない分を準備。収入に影響はないがベビーシッターの費用や家事労働対価を考え**入院日額8,000円程度**の医療保険で準備